

新たな発見と出会いを探しに出発

第7回「海洋アドベンチャースクール」

子どもたちが、フェリーで北海道へ旅する「海洋アドベンチャースクール」の出発式は、7月27日に公民館前で行われ、村内の小学6年生75人が7月31日まで4泊5日の旅に出発しました。

年で事業を終了する予定でしたが、児童や保護者からの強い要望を受け、村がさらに3年間事業を継続することにしたものです。

出発式では、高橋助役から「ルールを守り、一生残る感動」と思い出の旅にしてください」とあいさつがされた後、団員を代表して高橋和子さん（長泥）から、「自覚と責任ある行動をとり、ひと回り大きく成長して帰ってきます」と誓いの言葉が述べられました。

最後に、ボランティアスタッフの百井茂さんのリードでEIKAS（イカス）コールを全員で行った後、一行は3台のバスに分乗し、家族や学校の先生らの見送りを受けながら仙台港目指して出発しました。

アドベンチャースクールは7月31日、全員が元気に帰村しています。旅の内容は、来月の広報紙に掲載する予定です。



▲神長教育長に誓いの言葉を述べる高橋和子さん



まず大人から

近頃、子どもにまつわる事件が多いせいか、「早く教育を見直さないと...」という言葉があちこちで聞かれます。教育というのは、もちろん学校でもしょうが、きつと家庭の中の教育、親から子に対する教育をも含まれての話だと思っています。

戦後60年近く「先進国に追いつけ追いこせ」の流れの中で、「心の教育」がなおざりになってきてしまったということでしょう。「心」と言っても、とても広く、深く、難しい問題です。

そこで村では、とりあえず「ほめてしかって」と「あいさつを」の運動を進めている訳です。

あいさつといえば、先日愛知県の小学生の標語が目にとまりましたので、各学校に配らせていただきました。

「おはよう」といふ目ざめる
「いただきます」といふおなかのすく
「いただきます」といふげんきいける
「ありがとう」といふきもちがいつ
「めんなさい」といふほつちが
「おやすみなさい」といふいづめがみ
られる
あいさつっていいな...

いかがですか？この言葉を子どもと話し合って、やってみる価値があるのではないでしょうか。

近頃、「大人にすすめる絵本」という運動も盛んになってきました。子ども達の絵本の中に「日本人の忘れてしまった心」を考えさせられる絵本がたくさんあるので、是非大人も読んでみて、というものです。

村では、2〜3歳児に絵本のプレゼントをしています。親子のきずなを深めながら、本の好きな子どもに思いついてからでしたが、これからは大人や親の「心の教育」にもなるということも考えながら本を選ばなければと反省した次第です。

平成16年7月28日

飯館村長 菅野 典雄